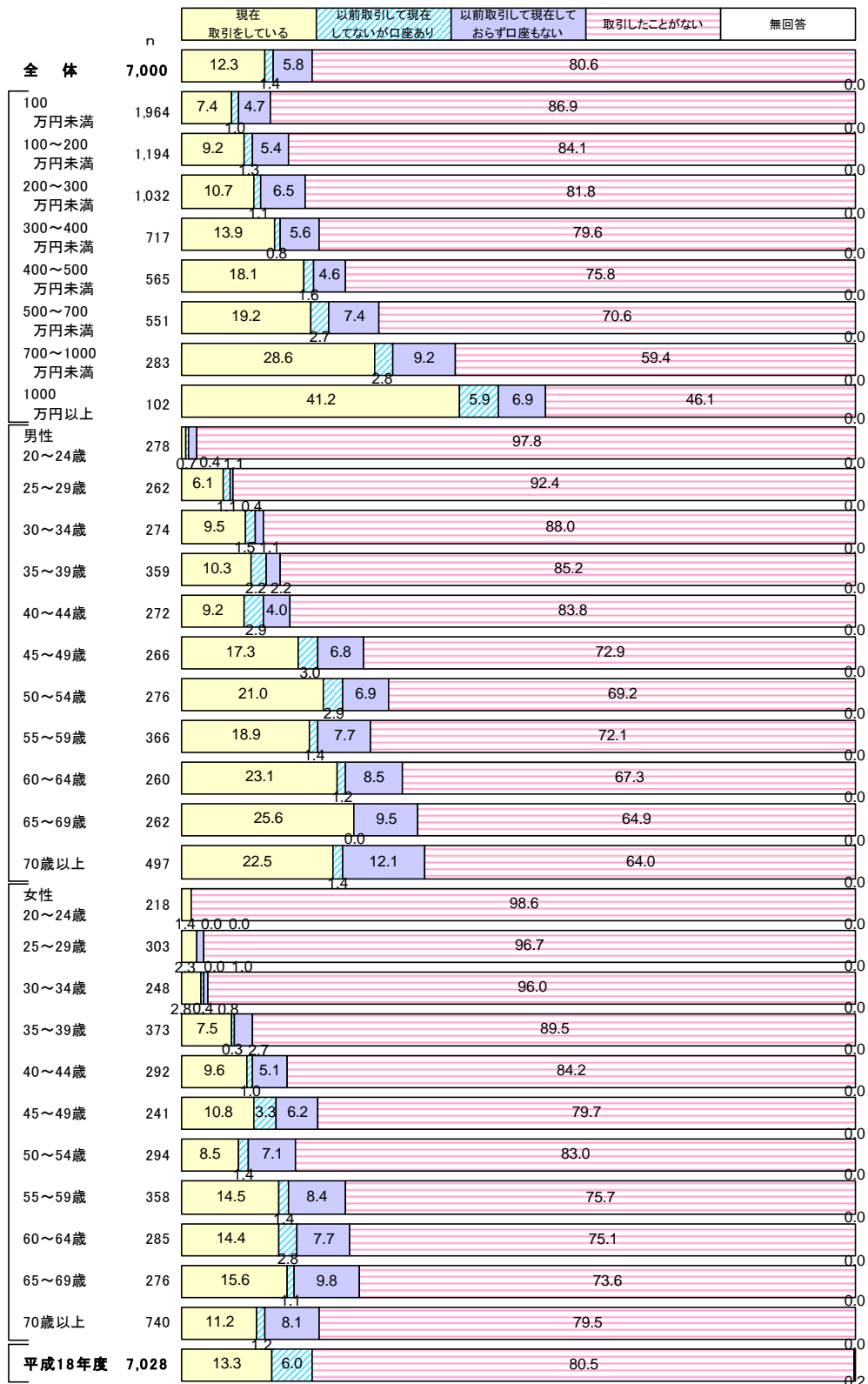


(1) 証券会社との取引状況（問 41）

- 証券会社との取引状況を見ると、「取引したことがない」が最も高く 80.6%である。「現在取引をしている」（12.3%）、「以前取引していたが、現在は取引していない。ただし、口座はある」（1.4%）、「以前取引していたが、現在は取引しておらず、口座もない」（5.8%）を合わせた証券会社との取引経験率は 19.5%である。
- 経験はあるものの現在取引していない人の中では、既に口座を閉じた人のほうが多い。

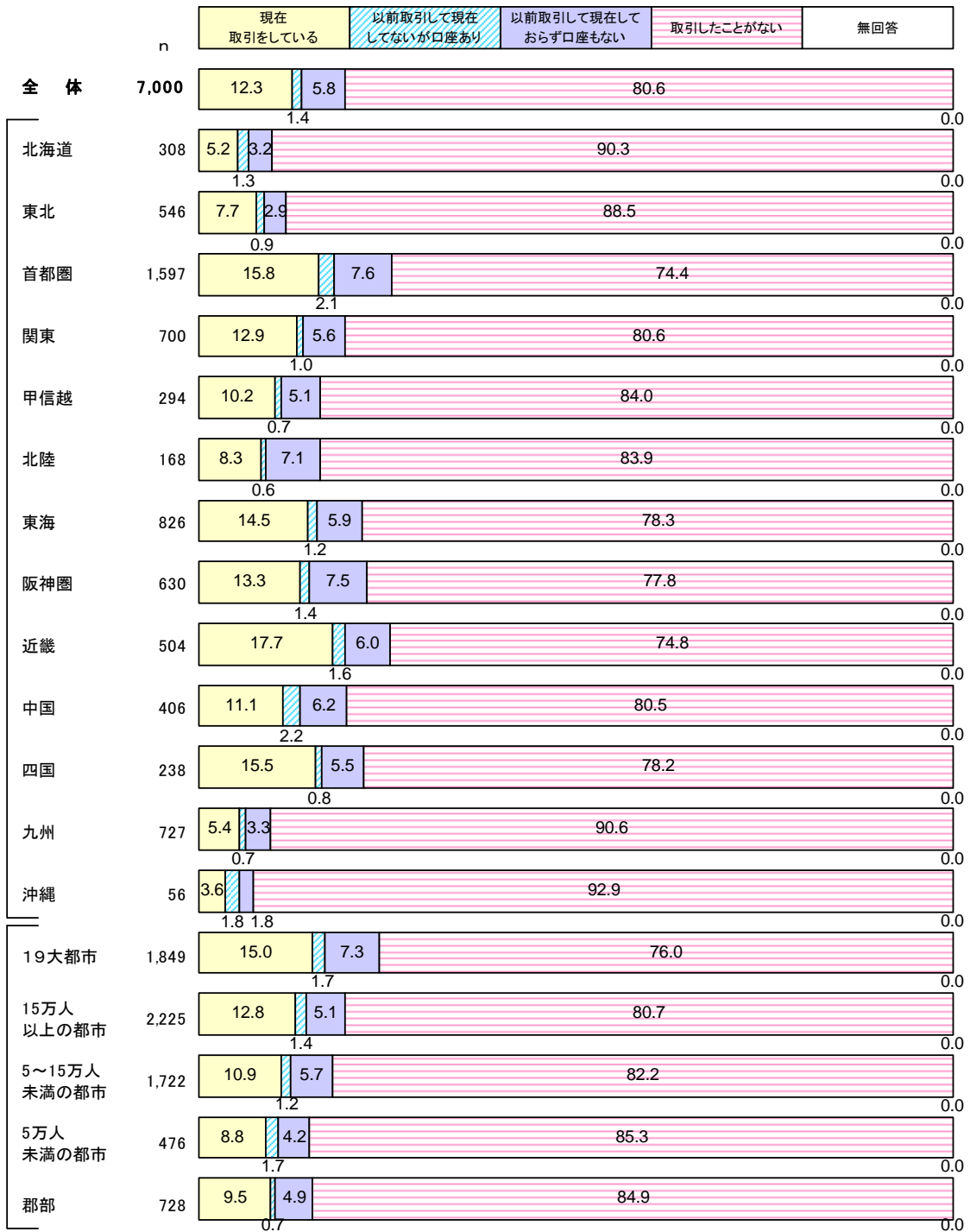
図表 8-1 証券会社との取引状況（問 41）／年収、性・年代別



\*今回（H21）調査よりカテゴリー細分化。  
 前回「以前取引していたが、現在は取引していない」、  
 今回「以前取引していたが、現在は取引していない。ただし、口座はある」  
 今回「以前取引していたが、現在は取引しておらず、口座もない」

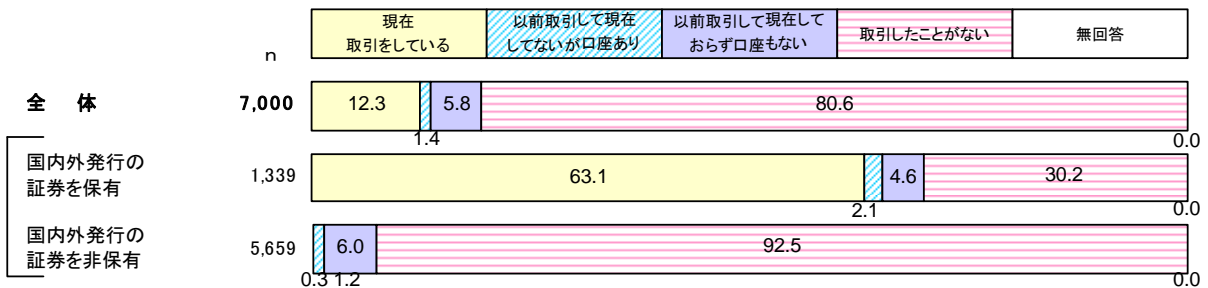
● 地域別でみると近畿(17.7%)や首都圏(15.8%)など、都市規模別では19大都市(15.0%)で「現在取引をしている」割合が高い傾向となっている。

図表 8-2 証券会社との取引状況 (問 41) / 地域・都市規模別



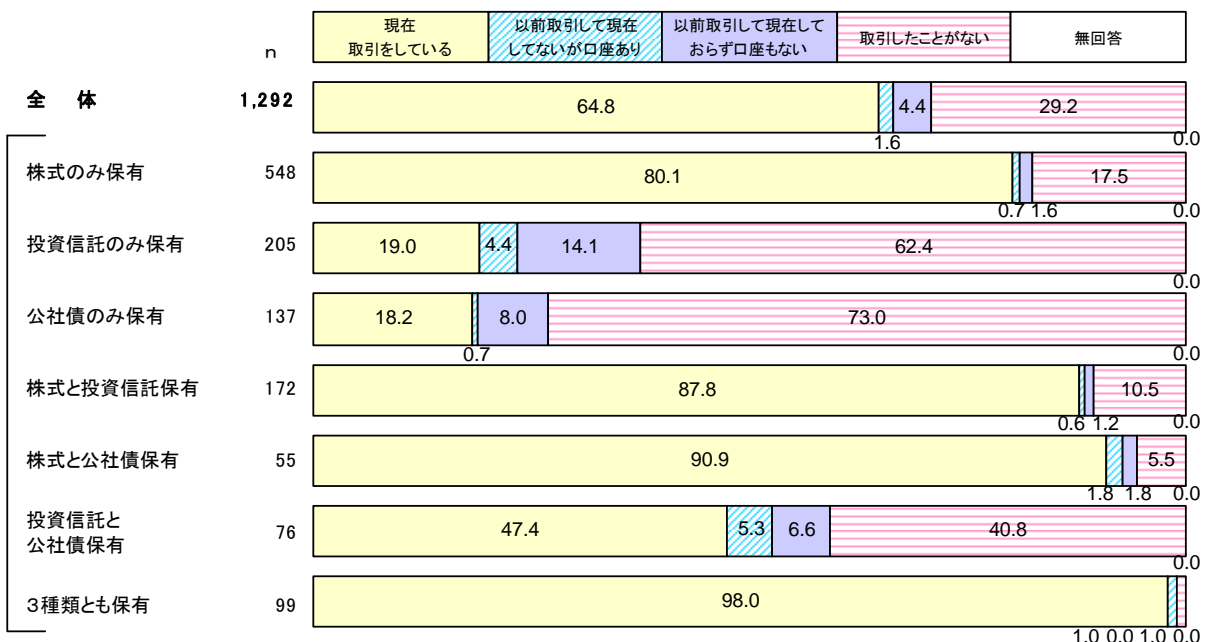
- 証券の保有状況別で見ると、証券保有者は「現在取引をしている」が63.1%、「これまでに取引したことがない」が30.2%となっている。非保有者は「これまでに取引したことがない」(92.5%)が9割を超える。

図表 8-3 証券会社との取引状況（問41）／証券の保有状況別（問2）



- 証券の重複保有状況別で見ると、「現在取引をしている」割合は、「3種類とも保有」、「株式と公社債保有」、「株式と投資信託保有」、「株式のみ保有」で8割以上となっており、特に「3種類とも保有」では98.0%にのぼる。

図表 8-4 証券会社との取引状況（問41）／証券の重複保有状況別（問10、29、37）



(2) 現在取引している証券会社数 (問 41)

● 現在取引をしている人の取引証券会社数は、平均で1.3社であり、「1社」と「2社」で85.8%を占めている。

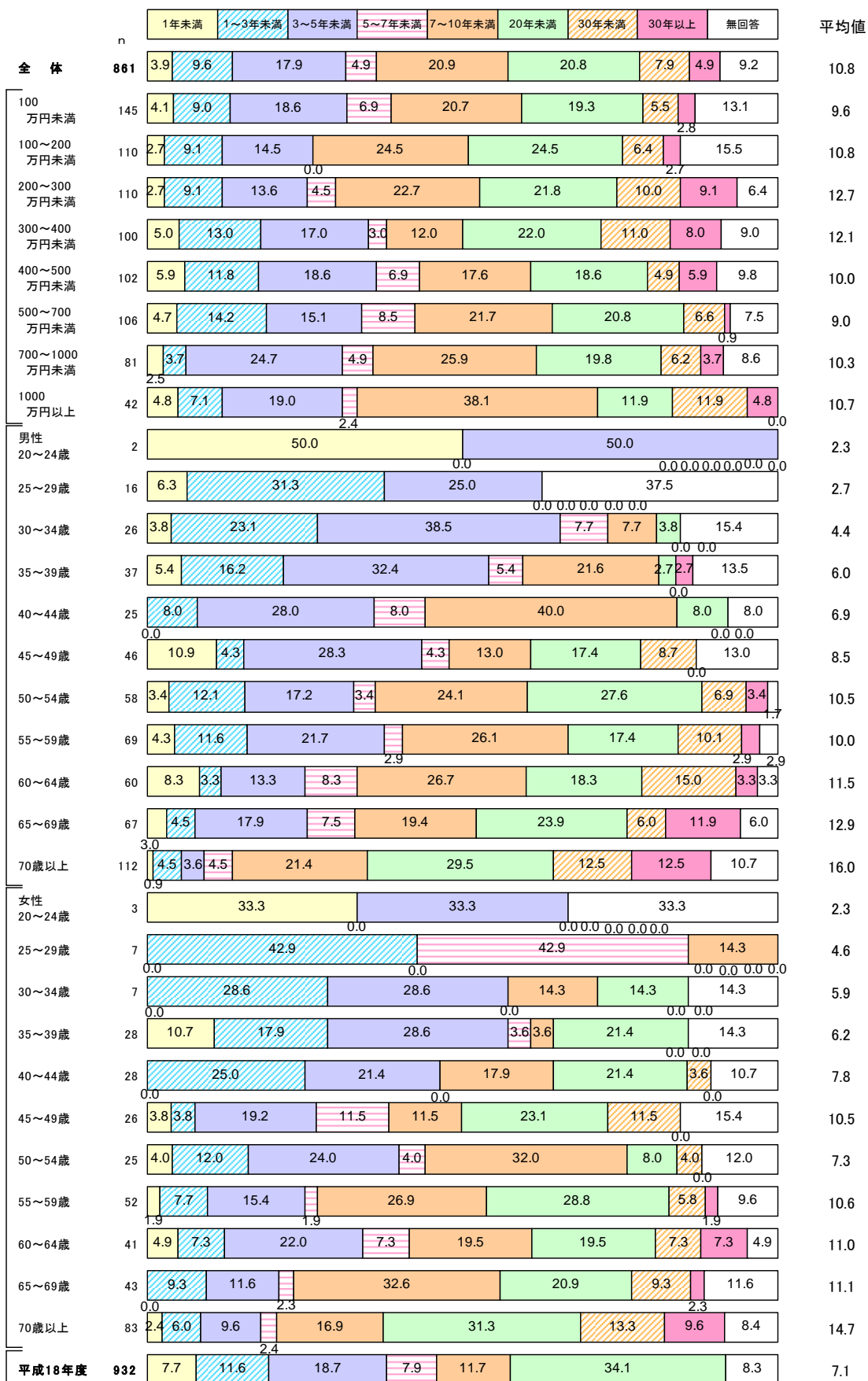
図表 8-5 現在取引している証券会社数 (問 41) / 年収、性・年代別

	n	1社	2社	3社以上	無回答	平均値	中央値
<b>全 体</b>	<b>861</b>	68.8	17.0	4.8	9.5	1.3	1.0
100万円未満	145	69.7	13.1	4.1	13.1	1.3	1.0
100~200万円未満	110	70.0	10.9	2.7	16.4	1.2	1.0
200~300万円未満	110	68.2	21.8	3.6	6.4	1.3	1.0
300~400万円未満	100	72.0	13.0	6.0	9.0	1.3	1.0
400~500万円未満	102	67.6	15.7	6.9	9.8	1.3	1.0
500~700万円未満	106	64.2	20.8	6.6	8.5	1.4	1.0
700~1000万円未満	81	64.2	24.7	2.5	8.6	1.3	1.0
1000万円以上	42	81.0	16.7	2.4	0.0	1.2	1.0
<b>男性</b>							
20~24歳	2	100.0	0.0	0.0	0.0	1.0	1.0
25~29歳	16	56.3	6.3	0.0	37.5	1.1	1.0
30~34歳	26	61.5	11.5	7.7	19.2	1.4	1.0
35~39歳	37	59.5	24.3	2.7	13.5	1.3	1.0
40~44歳	25	68.0	16.0	8.0	8.0	1.3	1.0
45~49歳	46	60.9	19.6	6.5	13.0	1.4	1.0
50~54歳	58	69.0	25.9	3.4	1.7	1.4	1.0
55~59歳	69	82.6	11.6	2.9	2.9	1.2	1.0
60~64歳	60	61.7	28.3	6.7	3.3	1.4	1.0
65~69歳	67	74.6	14.9	4.5	6.0	1.3	1.0
70歳以上	112	67.0	17.0	4.5	11.6	1.3	1.0
<b>女性</b>							
20~24歳	3	33.3	33.3	0.0	33.3	1.5	1.5
25~29歳	7	57.1	42.9	0.0	0.0	1.4	1.0
30~34歳	7	71.4	14.3	0.0	14.3	1.7	1.0
35~39歳	28	75.0	7.1	3.6	14.3	1.2	1.0
40~44歳	28	67.9	14.3	7.1	10.7	1.4	1.0
45~49歳	26	65.4	7.7	11.5	15.4	1.5	1.0
50~54歳	25	56.0	28.0	4.0	12.0	1.4	1.0
55~59歳	52	67.3	15.4	7.7	9.6	1.4	1.0
60~64歳	41	73.2	22.0	0.0	4.9	1.2	1.0
65~69歳	43	69.8	11.6	4.7	14.0	1.3	1.0
70歳以上	83	75.9	12.0	3.6	8.4	1.2	1.0
<b>平成18年度</b>	<b>932</b>	<b>70.7</b>	<b>16.1</b>	<b>4.9</b>	<b>8.3</b>	<b>1.3</b>	<b>1.0</b>

(3) 中心となって取引している証券会社との取引年数（問 41-1）

● 中心となって取引している証券会社との取引年数は、「7～10年未満」（20.9%）と「20年未満」（20.8%）がほぼ同水準で上位であり、次いで「3～5年未満」（17.9%）が多い。

図表 8-6 中心となって取引している証券会社との取引年数（問 41-1）／年収、性・年代別

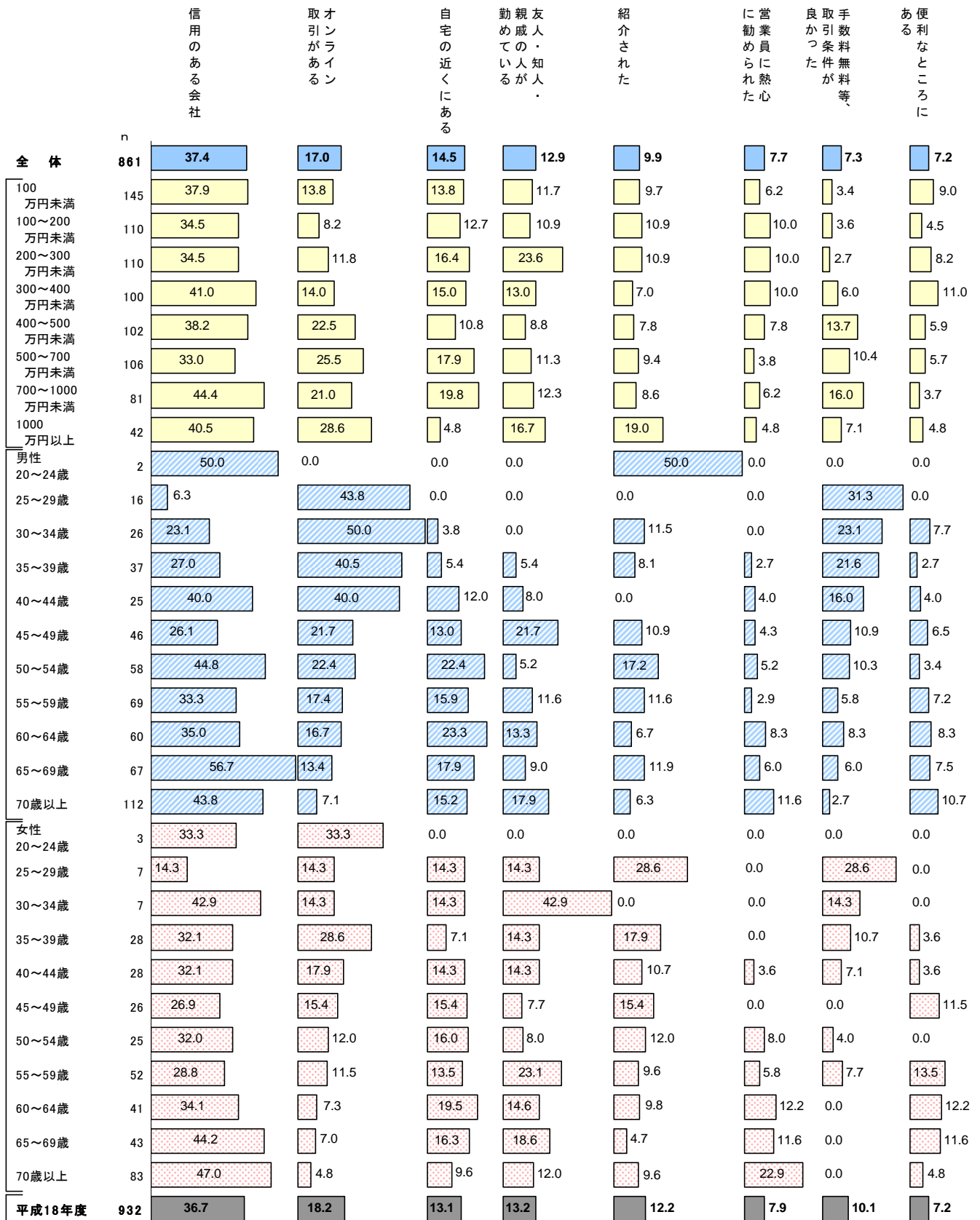


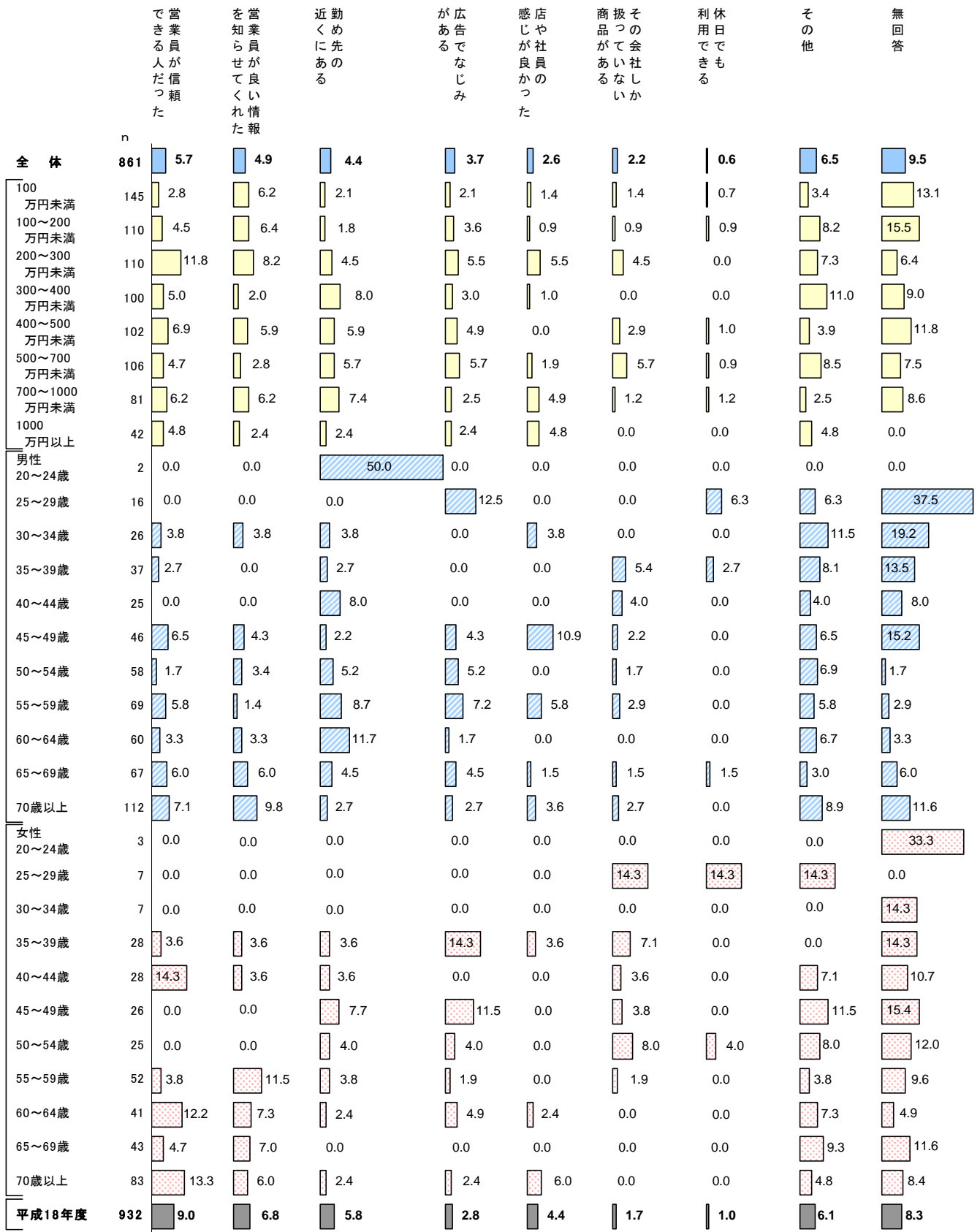
\*今回（H21）調査よりカテゴリー細分化。  
 前回「10年以上」、今回「20年未満」「30年未満」「30年以上」

(4) 中心となって取引している証券会社の選択理由（複数回答）（問 42）

● 中心となって取引している証券会社を選んだ理由については、「信用のある会社だから」が 37.4%で最も高い。次いで「オンライン取引（インターネット取引）があるから」（17.0%）、「自宅の近くにあるから」（14.5%）、「友人・知人の勧めがあるから」（12.9%）と続く。利便性に関する項目も比較的高いが、証券会社に対する信頼感がポイントとなっていることが分かる。

図表 8-7 中心となって取引している証券会社の選択理由（複数回答）（問 42）／年収、性・年代別

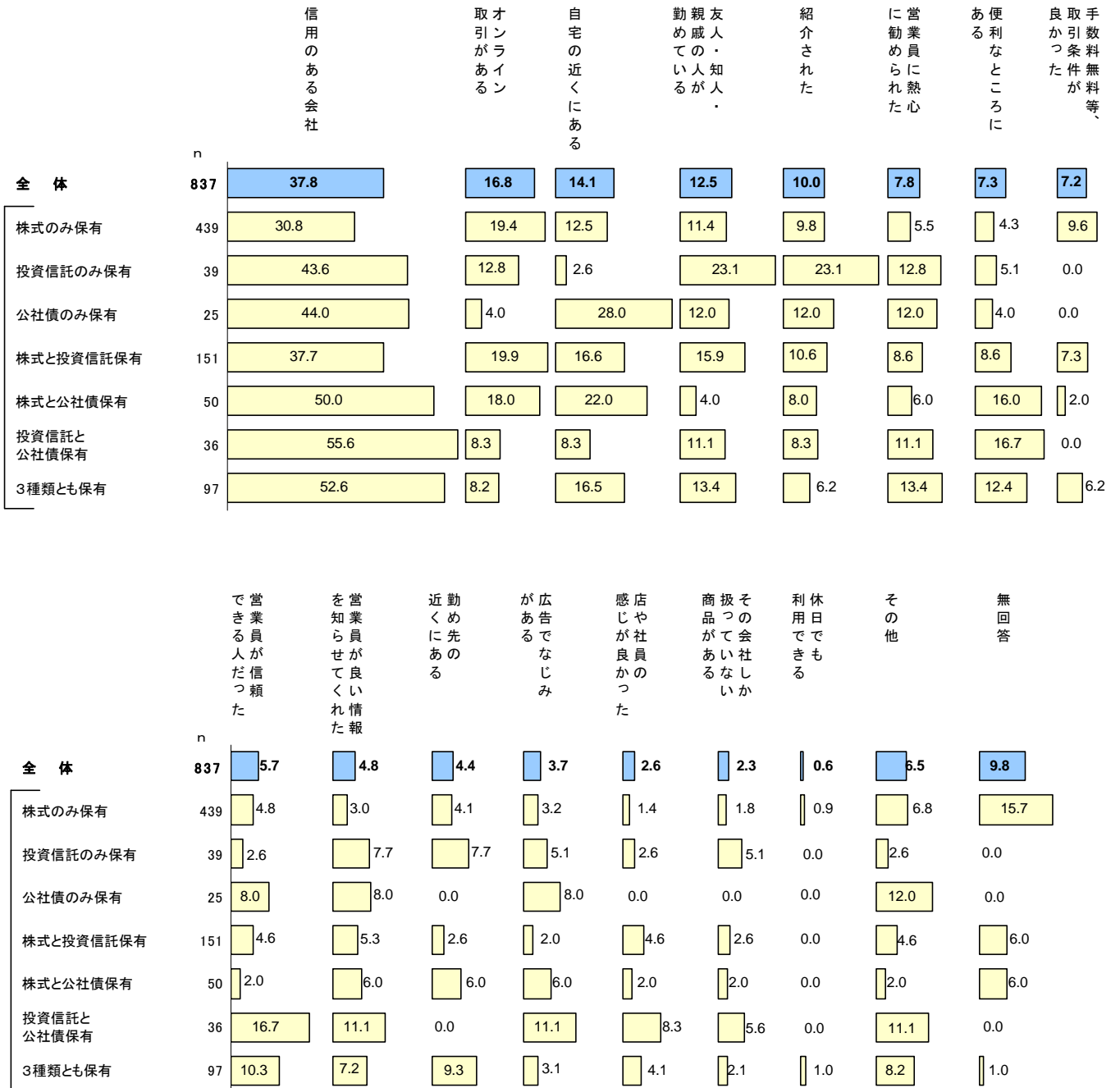




● サンプルが少ない層もあるが証券の重複保有状況別でも、「信用のある会社」はどの層でも最も高い。

図表 8-8 中心となって取引している証券会社の選択理由（複数回答）（問 42）

／証券の重複保有状況別（問 10、29、37）

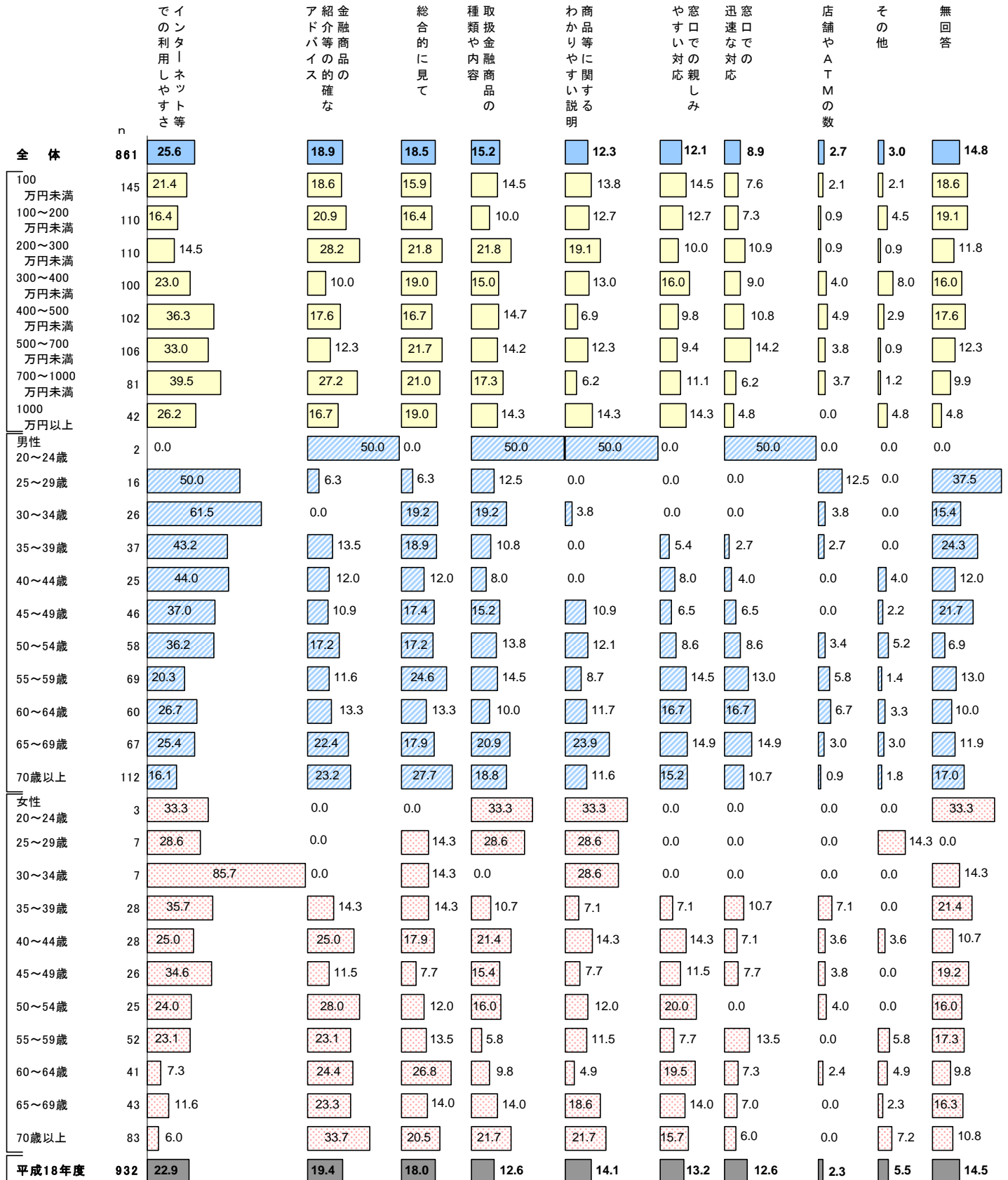




(5) 証券会社利用時の満足点（複数回答）（問43）

- 証券会社と現在取引中の人に、証券会社利用時の満足点を尋ねたところ、「インターネットや電話での利用のしやすさ」が25.6%でトップ。次いで、「自分にあった金融商品の紹介などの的確なアドバイス」（18.9%）、「総合的に見て」（18.5%）と続く。
- 前回と比較して、「窓口での親しみやすい対応」に特に大きな差がないのに対し「窓口での迅速な対応」が若干下がっている。

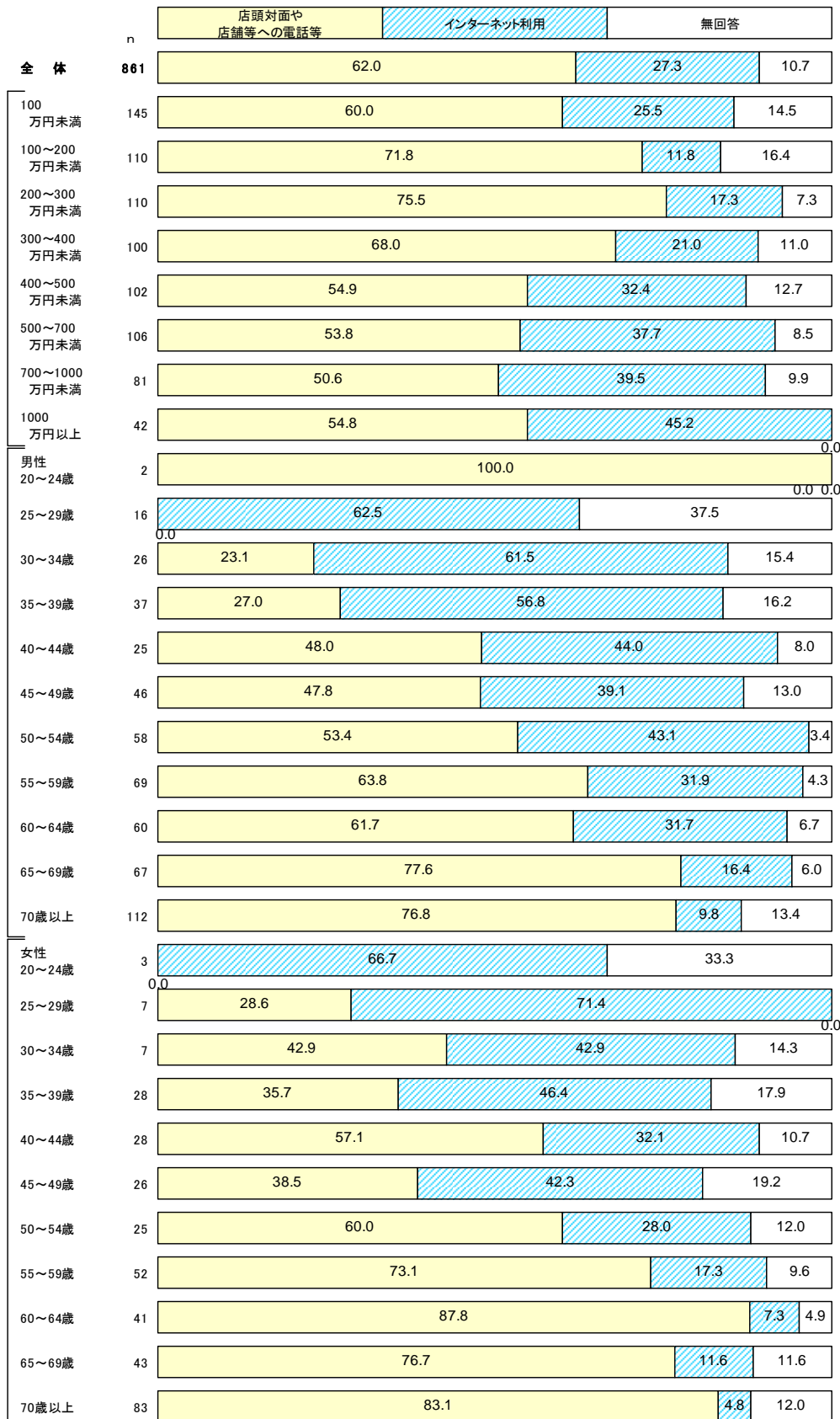
図表 8-9 証券会社利用時の満足点（複数回答）（問43）／年収、性・年代別



(6) 証券会社との主な取引方法（問 44）

- 証券会社と現在取引中の人に主な取引方法を尋ねたところ、「店頭における営業員との対面または店舗等への電話等により取引をしている」が 62.0%に対し、「インターネットを利用して取引をしている」は 27.3%となっている。
- サンプル数が少ない層もあるが、インターネット取引の利用率は年収が高いほど上がり、男女とも年齢が上がるほど利用率は下がる傾向である。

図表 8-10 証券会社との主な取引方法（問 44）／年収、性・年代別



(7) 証券会社と取引している金融商品（問 45）

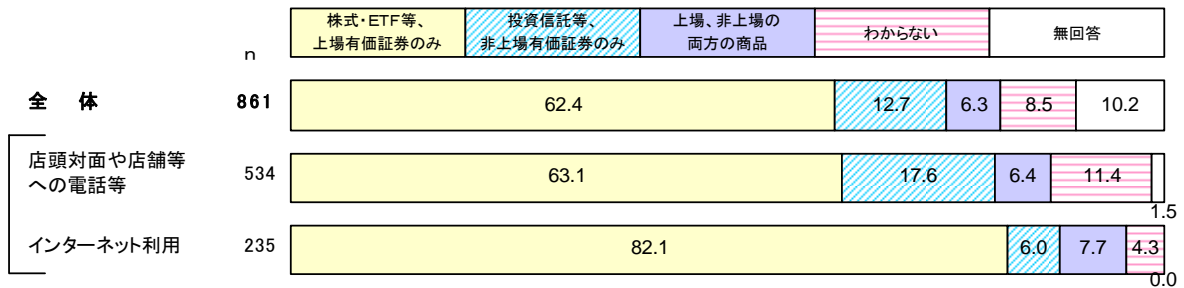
- 証券会社と現在取引中の人にその金融商品を探ねたところ、「株式・ETF・REIT など、主に取引所に上場している有価証券（取引所上場商品）のみを取引している」が 62.4%と多数を占め、「投資信託や外貨建て債券など、取引所上場商品以外の有価証券のみを取引している」が 12.7%、「取引所上場商品と取引所上場商品以外の商品の両方を取引している」が 6.3%である。
- サンプル数が少ない層もあるが、年収が高いほど、「上場有価証券のみ」の取引の割合が多い傾向にある。

図表 8-11 証券会社と取引している金融商品（問 45）／年収、性・年代別

	n	株式・ETF等、 上場有価証券のみ	投資信託等、 非上場有価証券のみ	上場、非上場の 両方の商品	わからない	無回答
全体	861	62.4	12.7	6.3	8.5	10.2
100万円未満	145	50.3	20.0	6.2	9.0	14.5
100～200万円未満	110	55.5	10.9	2.7	12.7	18.2
200～300万円未満	110	54.5	20.0	5.5	12.7	7.3
300～400万円未満	100	66.0	13.0	6.0	6.0	9.0
400～500万円未満	102	58.8	12.7	9.8	7.8	10.8
500～700万円未満	106	76.4	7.5	3.8	3.8	8.5
700～1000万円未満	81	65.4	6.2	13.6	6.2	8.6
1000万円以上	42	90.5	0.0	2.4	0.0	7.1
男性						
20～24歳	2	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0
25～29歳	16	43.8	6.3	6.3	6.3	37.5
30～34歳	26	46.2	11.5	15.4	11.5	15.4
35～39歳	37	70.3	5.4	5.4	5.4	13.5
40～44歳	25	64.0	16.0	4.0	8.0	8.0
45～49歳	46	67.4	8.7	8.7	0.0	15.2
50～54歳	58	74.1	10.3	5.2	8.6	1.7
55～59歳	69	81.2	2.9	7.2	5.8	2.9
60～64歳	60	81.7	5.0	6.7	3.3	3.3
65～69歳	67	76.1	9.0	4.5	7.5	3.0
70歳以上	112	57.1	14.3	8.0	8.0	12.5
女性						
20～24歳	3	33.3	0.0	33.3	0.0	33.3
25～29歳	7	71.4	0.0	28.6	0.0	0.0
30～34歳	7	71.4	0.0	14.3	0.0	14.3
35～39歳	28	60.7	14.3	3.6	7.1	14.3
40～44歳	28	42.9	25.0	7.1	14.3	10.7
45～49歳	26	50.0	15.4	7.7	7.7	19.2
50～54歳	25	44.0	20.0	12.0	12.0	12.0
55～59歳	52	65.4	11.5	3.8	9.6	9.6
60～64歳	41	58.5	26.8	4.9	4.9	4.9
65～69歳	43	55.8	14.0	4.7	14.0	11.6
70歳以上	83	43.4	19.3	6.0	18.1	13.3

- 主な取引方法別では、インターネット利用者において「株式・ETF・REITなど、主に取引所に上場している有価証券（取引所上場商品）のみを取引している」が8割を超えて高い。

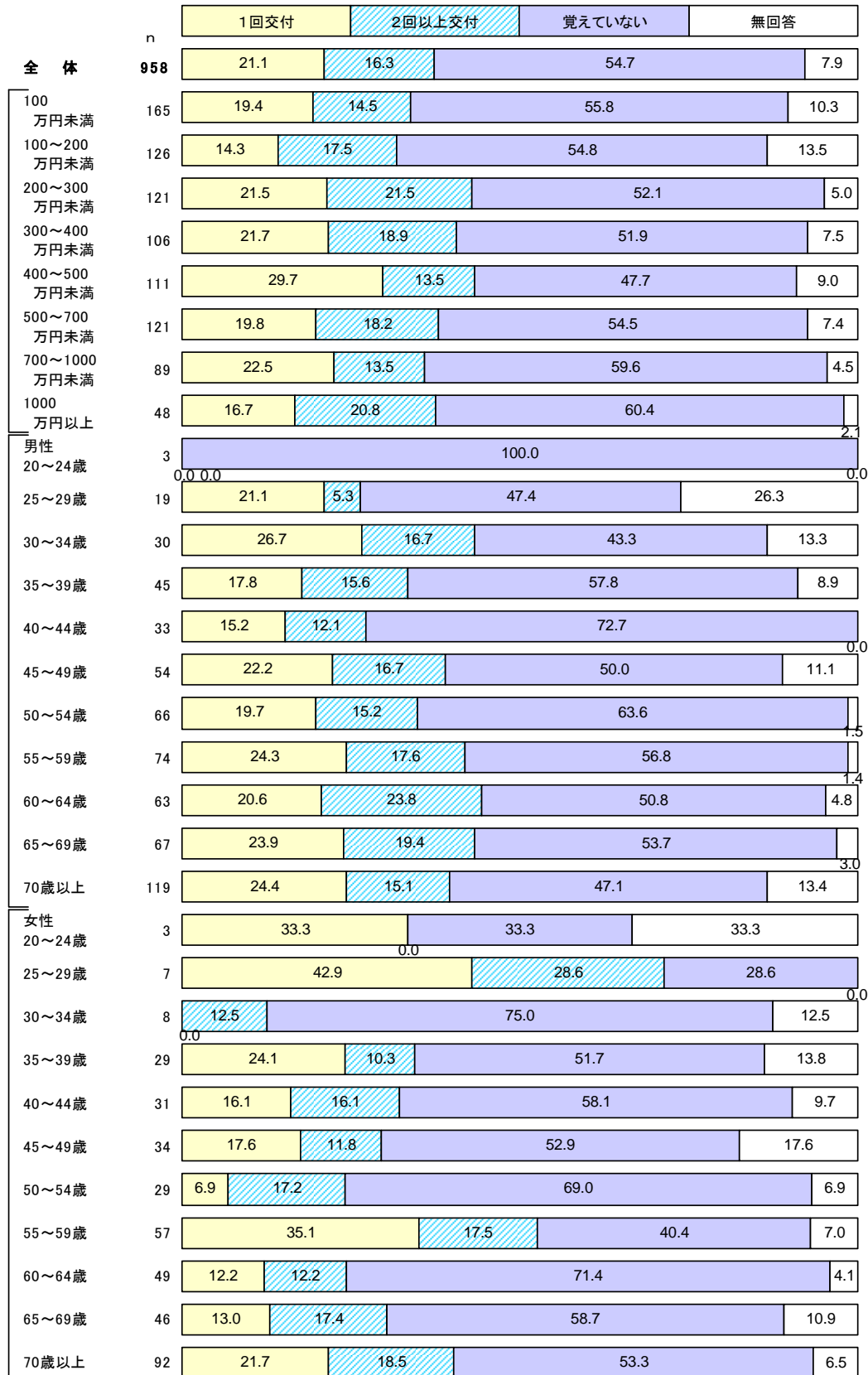
図表 8-12 証券会社と取引している金融商品（問 45）／証券会社との主な取引方法別（問 44）



(8) 契約締結前交付書面の交付回数（問 46）

● 証券会社と現在取引中、あるいは現在は取引していないが口座はある人に対して主な取引証券会社から「契約締結前交付書面」（注）の交付回数を尋ねたところ、「1回だけ交付されたことがある（1回だけ同意・承諾確認画面を見たことがある）」が21.1%、「2回以上交付されたことがある（2回以上同意・承諾確認画面を見たことがある）」が16.3%であった。

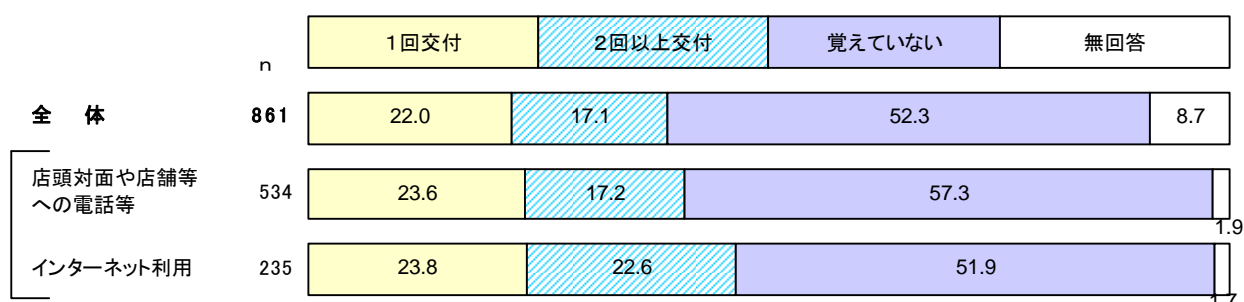
図表 8-13 契約締結前交付書面の交付回数（問 46）／年収、性・年代別



(注) 「契約締結前交付書面」は、金融商品取引法第 37 条の 3 の規定により証券会社からの交付が義務づけられており、有価証券の売買等を行う場合のリスクや留意点について記載されています。施行日である平成 19 年 9 月 30 日以降に、金融商品取引契約を締結しようとするときが対象であり、契約締結前の 1 年以内に同種の取引による「契約締結前交付書面」が交付されている場合は、あらためて交付しなくてもよいことになっています。

● 証券会社との主な取引方法別にみると、店頭対面・電話等利用者とインターネット利用者ともに「1 回だけ交付されたことがある」が 2 割強であるが、「2 回以上交付されたことがある」割合はインターネット利用者のほうが多い傾向にある。

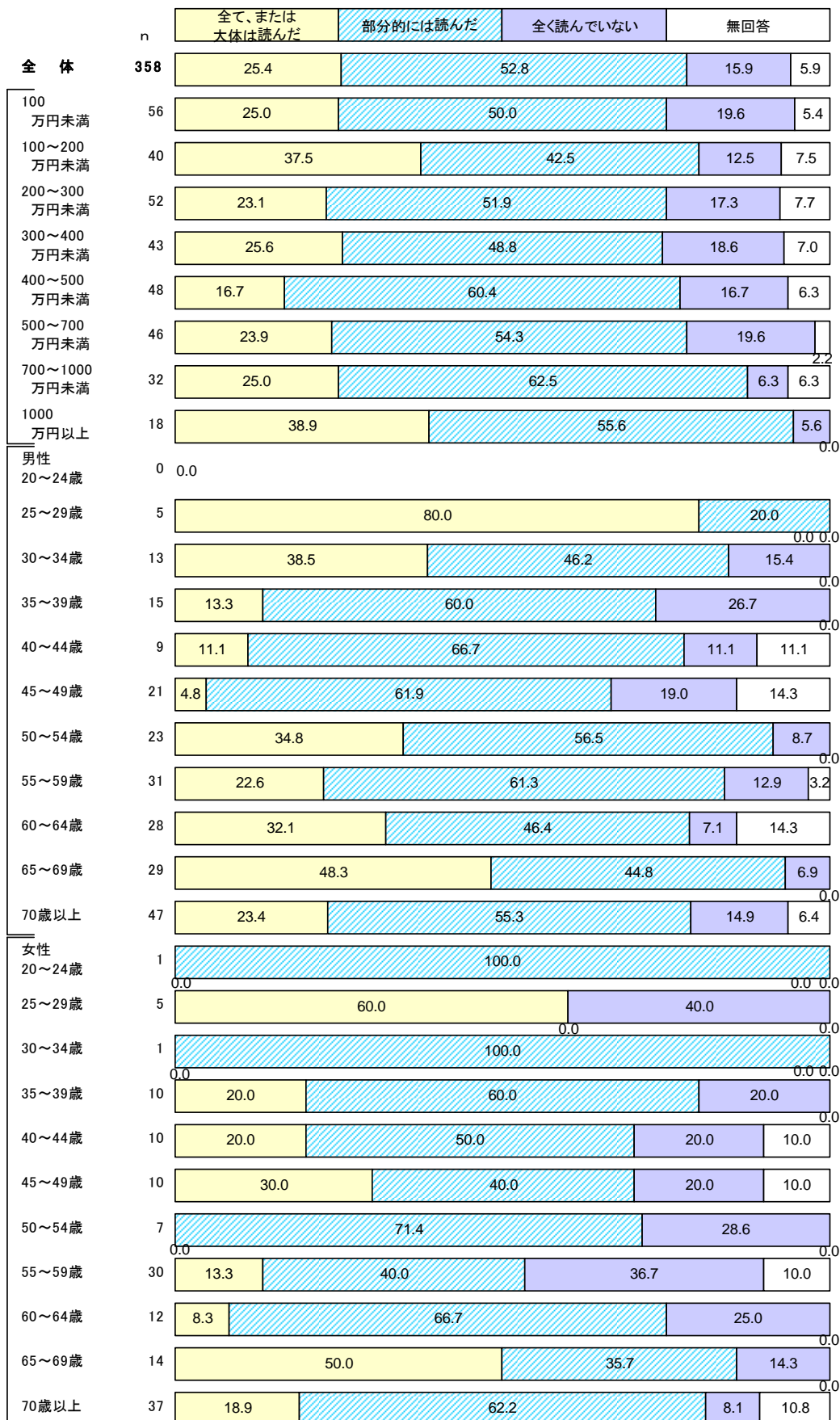
図表 8-14 契約締結前交付書面の交付回数（問 46）／証券会社との主な取引方法別（問 44）



(9) 契約締結前交付書面について 1回目 (問 47)

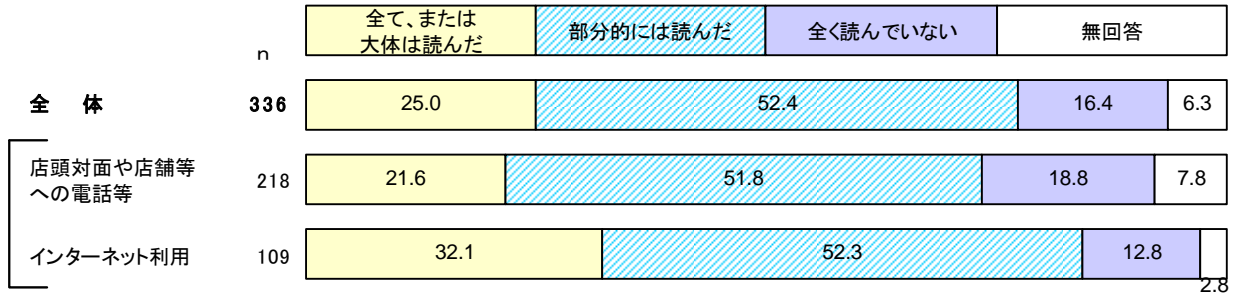
● 交付1回目に関して、「契約締結前交付書面」を読んだかを尋ねたところ、「読んだ」人（「全て、または大体は読んだ」25.4%+「部分的には読んだ」52.8%）は8割弱に及ぶ。一方、「全く読んでいない」も1割半ば（15.9%）であった。

図表 8-15 契約締結前交付書面について 1回目 (問 47) / 年収、性・年代別



- 証券会社との主な取引方法別でみると、「読んだ」人は店頭対面・電話等利用者が73.4%なのに対して、インターネット利用者は84.4%と比較的多い。

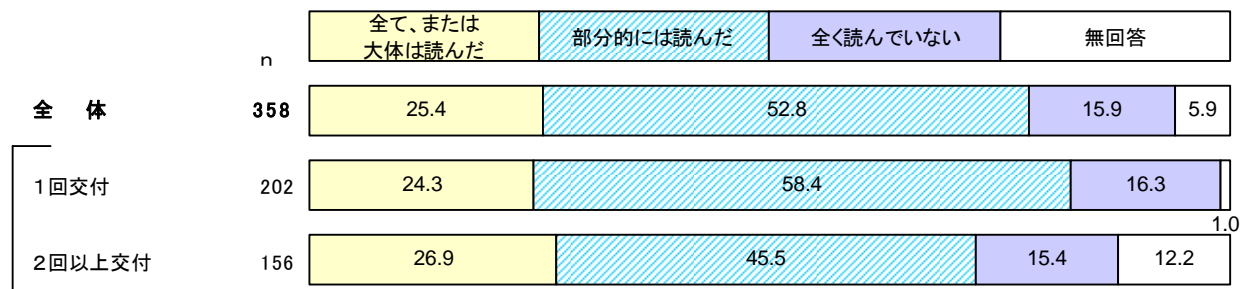
図表 8-16 契約締結前交付書面について 1回目(問47) / 証券会社との取引方法別(問44)



- 交付経験回数別にみると、交付経験1回の場合では「読んだ」人は約8割であり、交付経験2回以上の場合に1回目で「読んだ」割合は約7割となっている。

図表 8-17 契約締結前交付書面について 1回目(問47)

／契約締結前交付書面の交付回数別(問46)

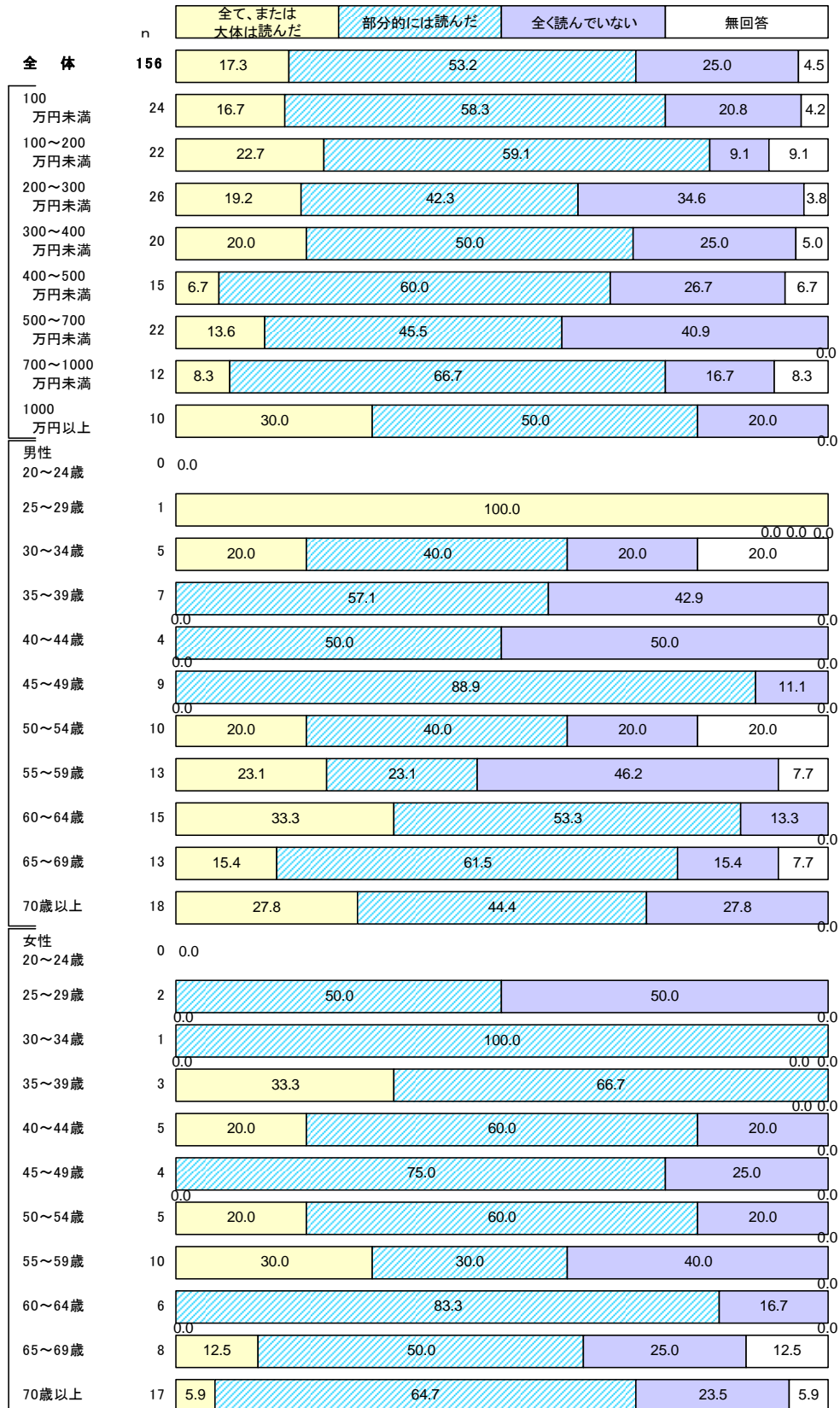




(10) 契約締結前交付書面について 2回目 (問47)

- 交付2回目に関して、「契約締結前交付書面」を読んだかを尋ねたところ、「全て、または大体は読んだ」が17.3%で、「部分的には読んだ」が53.2%であり、程度の差はあるものの「読んだ」人が約7割である。「全く読んでいない」は25.0%であった。
- 交付1回目と比べると、「部分的には読んだ」割合に大きな差はないものの、交付2回目では「全て、または大体は読んだ」人が減る一方、「全く読んでいない」が増加していることが分かる。

図表 8-18 契約締結前交付書面について 2回目 (問47) / 年収、性・年代別



● 証券会社との主な取引方法別で見ると、交付2回目では、程度の差はあるものの「読んだ」人は店頭対面・電話等利用者が71.7%、インターネット利用者が69.8%でほぼ同じ割合と言える。

図表 8-19 契約締結前交付書面について 2回目（問47）／証券会社との取引方法別（問44）

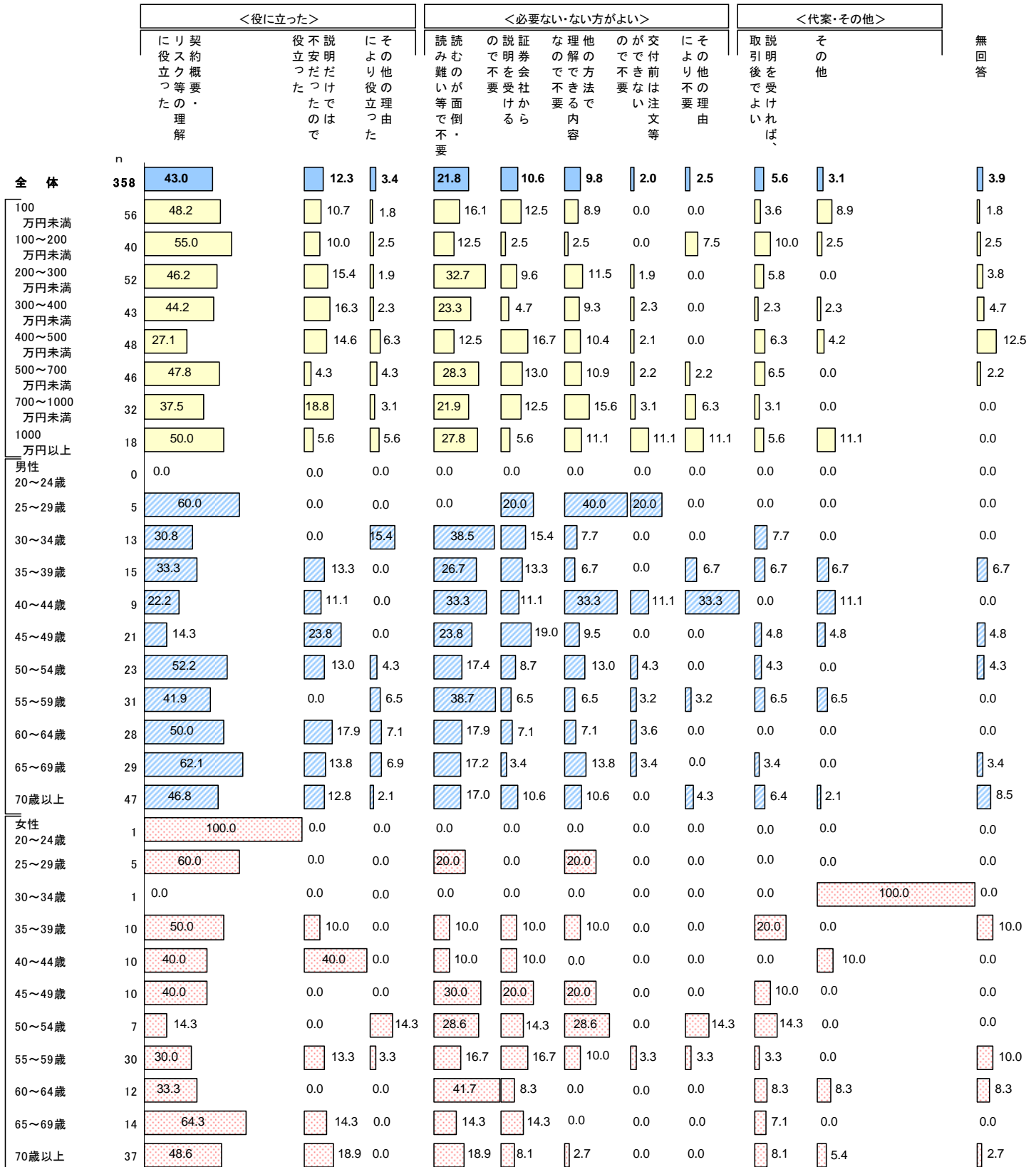
	n	全て、または 大体は読んだ	部分的には読んだ	全く読んでいない	無回答
全 体	147	17.7	53.1	25.2	4.1
店頭対面や店舗等 への電話等	92	17.4	54.3	23.9	4.3
インターネット利用	53	18.9	50.9	26.4	3.8

(11) 初取引前に契約締結前交付書面を受けることについて（複数回答）（問 48）

● 書面交付の経験がある人に対して、初めて証券会社と取引する前に契約締結前交付書面を受けることについてどう思ったかを尋ねたところ、「契約の概要・リスク等を理解するうえで役に立った」（43.0%）など“役に立った”との意見が合計で58.7%あった一方、「読むのが面倒・読み難い等の理由により読まなかったため、交付は必要ないと思った」（21.8%）など“必要ない・ない方がよい”との意見も合計で46.7%あった。

図表 8-20 初取引前に契約締結前交付書面を受けることについて（複数回答）（問 48）

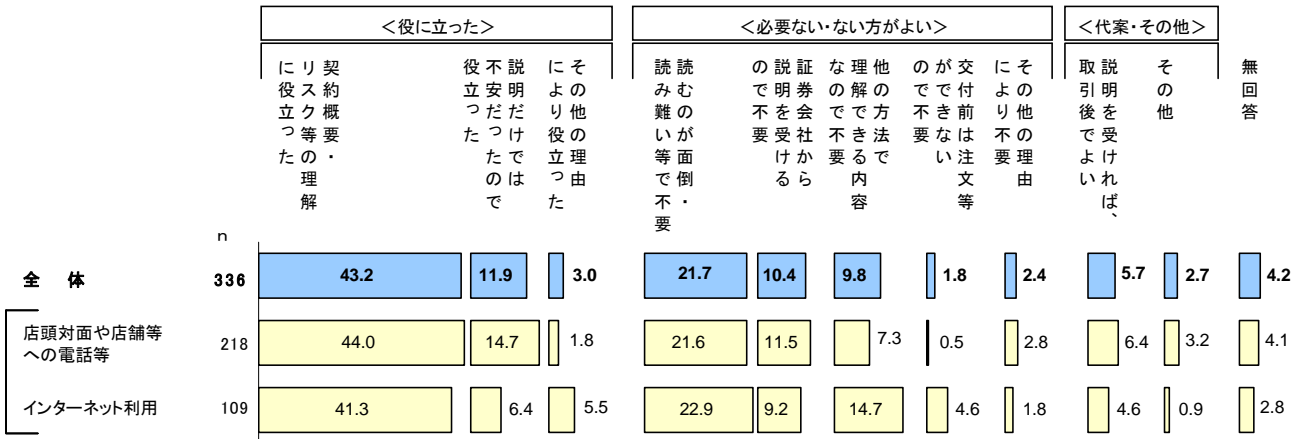
／年収、性・年代別



● 証券会社との主な取引方法別でみると、店頭対面・電話等利用者では「証券会社からの説明だけでは不安だったので役に立った」が比較的高いのに対し、インターネット利用者では「他の方法等により既に理解できている内容なので、必要ないと思った」が比較的高いのが特徴的である。

図表 8-21 初取引前に契約締結前交付書面を受けることについて（複数回答）（問 48）

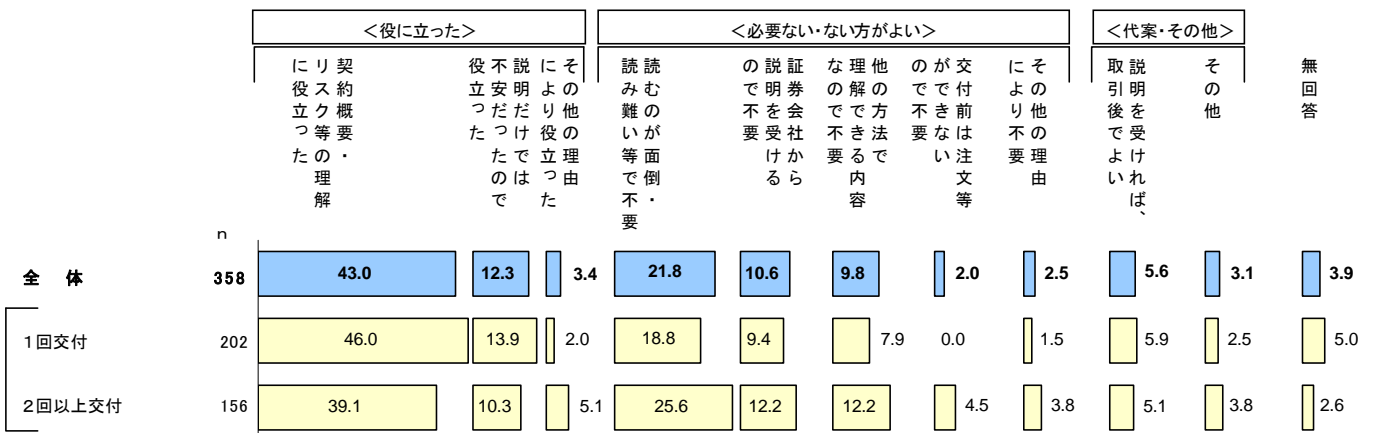
／証券会社との取引方法別（問 44）



● 交付経験回数別にみると、交付経験 2 回以上の場合「読むのが面倒・読み難い等の理由により読まなかったため、交付は必要ないと思った」が交付経験 1 回よりもやや高い傾向である。

図表 8-22 初取引前に契約締結前交付書面を受けることについて（複数回答）（問 48）

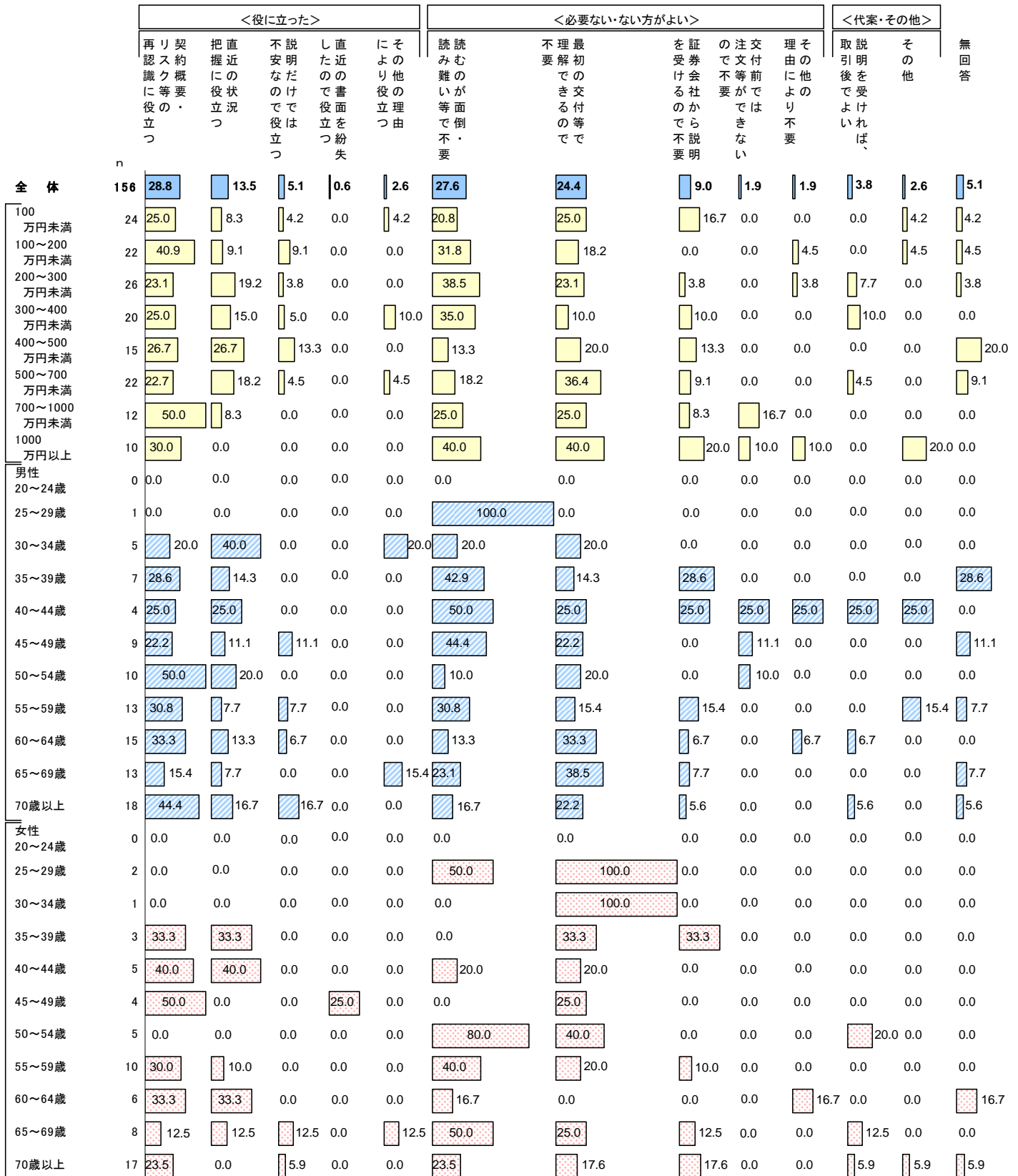
／契約締結前交付書面の交付回数別（問 46）



(12) 取引1年後に再交付が必要なことについて（複数回答）（問49）

● 書面交付の経験が2回以上ある人に対して、取引から1年経過後に契約締結前交付書面の再交付が必要なことについてどう思うかを尋ねたところ、「契約の概要・リスク等を再認識する上で役に立つ」（28.8%）、「読むのが面倒・読み難い等の理由により読まなかったため、交付は必要ないと思った」（27.6%）、「最初の交付、過去の経験、その他の方法等により既に理解できている内容なので、再交付は必要ないと思う」（24.4%）が20%を超えてトップ3となった。“役に立った”と“必要ない”の両意見が並んでいる。

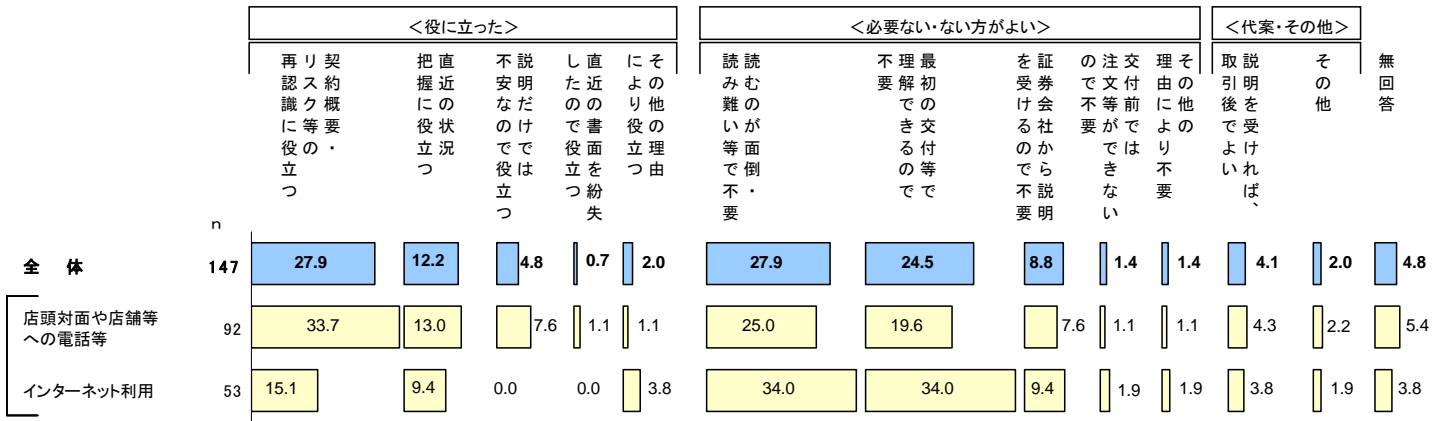
図表 8-23 取引1年後に再交付が必要なことについて（複数回答）（問49）／年収、性・年代別



● 主な取引方法別にみると、店頭対面・電話等利用者では「契約の概要・リスク等を再認識するうえで役に立つ」が3割強で最も高いのに対し、インターネット利用者では「最初の交付、過去の経験、その他の方法等により既に理解できている内容なので、再交付は必要ないと思う」と「読むのが面倒・読み難い等の理由により読まないで、再交付は必要ないと思う」という“必要ない”意見が3割強を占める。

図表 8-24 取引1年後に再交付が必要なことについて（複数回答）（問49）

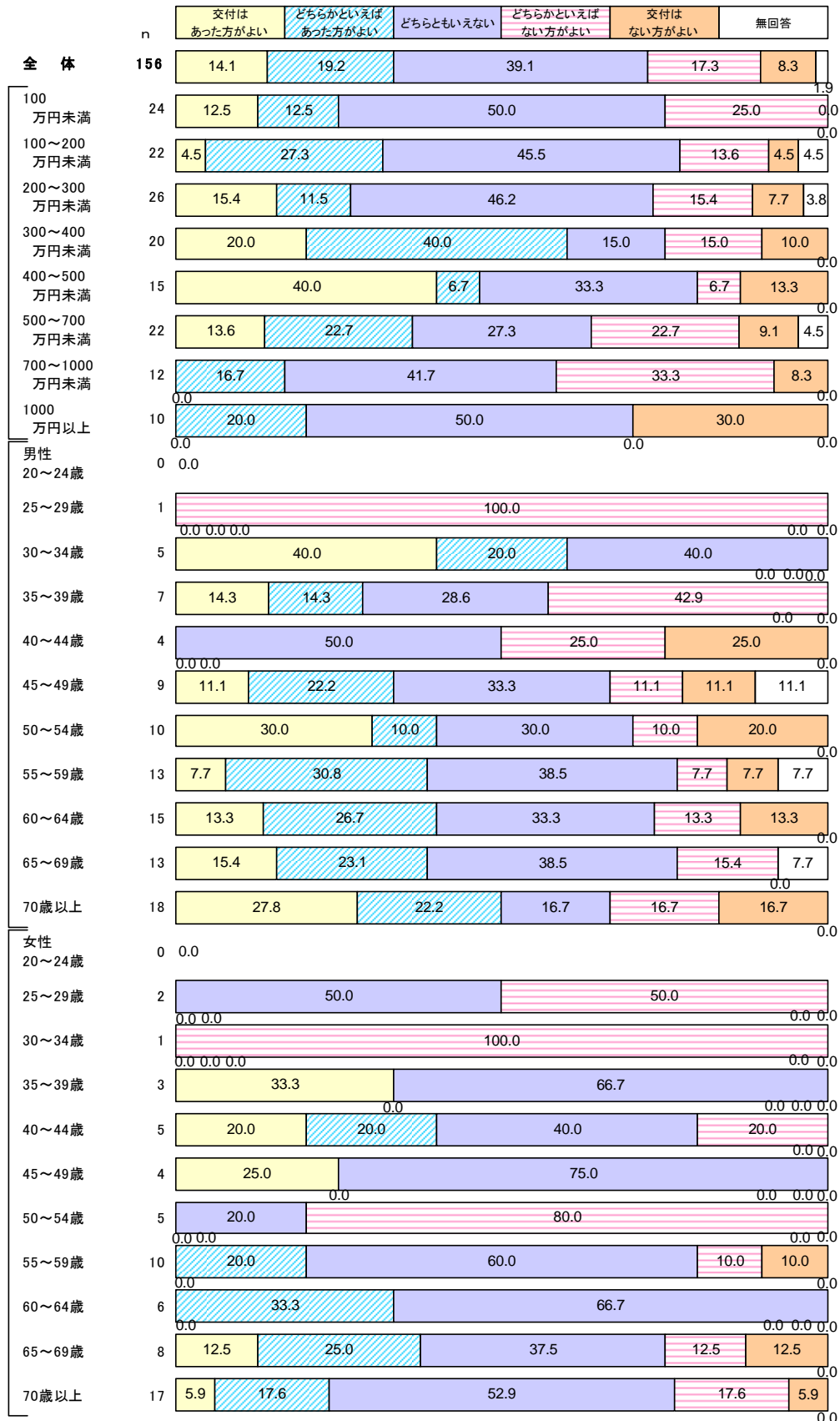
／証券会社との取引方法別（問44）



(13) 契約締結前交付書面の2回目の交付について (問50)

● 書面交付の経験が2回以上の人に対して、2回目の契約締結前交付書面の交付についてどう思うかを聞いたところ、「どちらともいえない」が39.1%であった。「交付はあった方がよい」(14.1%)と「どちらかといえばあった方がよい」(19.2%)を合わせた「あった方がよい」は3割強であり、「交付はない方がよい」(8.3%)と「どちらかといえばない方がよい」(17.3%)の「ない方がよい」は2割半ばである。

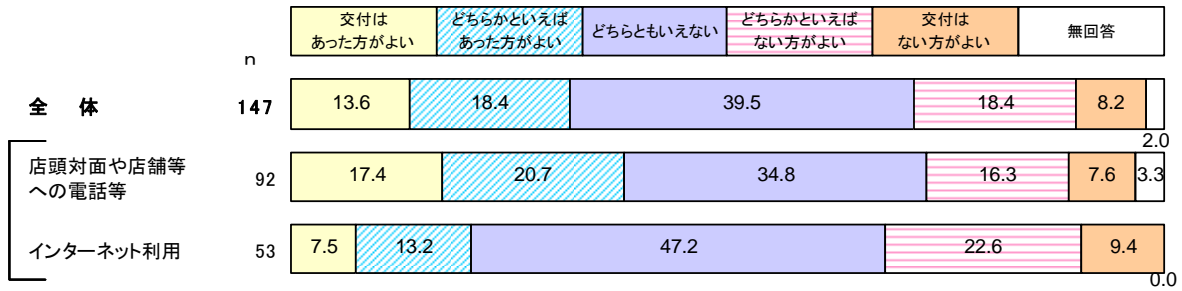
図表 8-25 契約締結前交付書面の2回目の交付について (問50) / 年収、性・年代別



● 証券会社との主な取引方法別にみると、店頭対面・電話等利用者では「あった方がよい」が38.1%に対し、インターネット利用者では「ない方がよい」が32.0%。ただし、インターネット利用者では「どちらでもいけない」が約半数を占めている。

図表 8-26 契約締結前交付書面の2回目の交付について（問 50）

／証券会社との取引方法別（問 44）

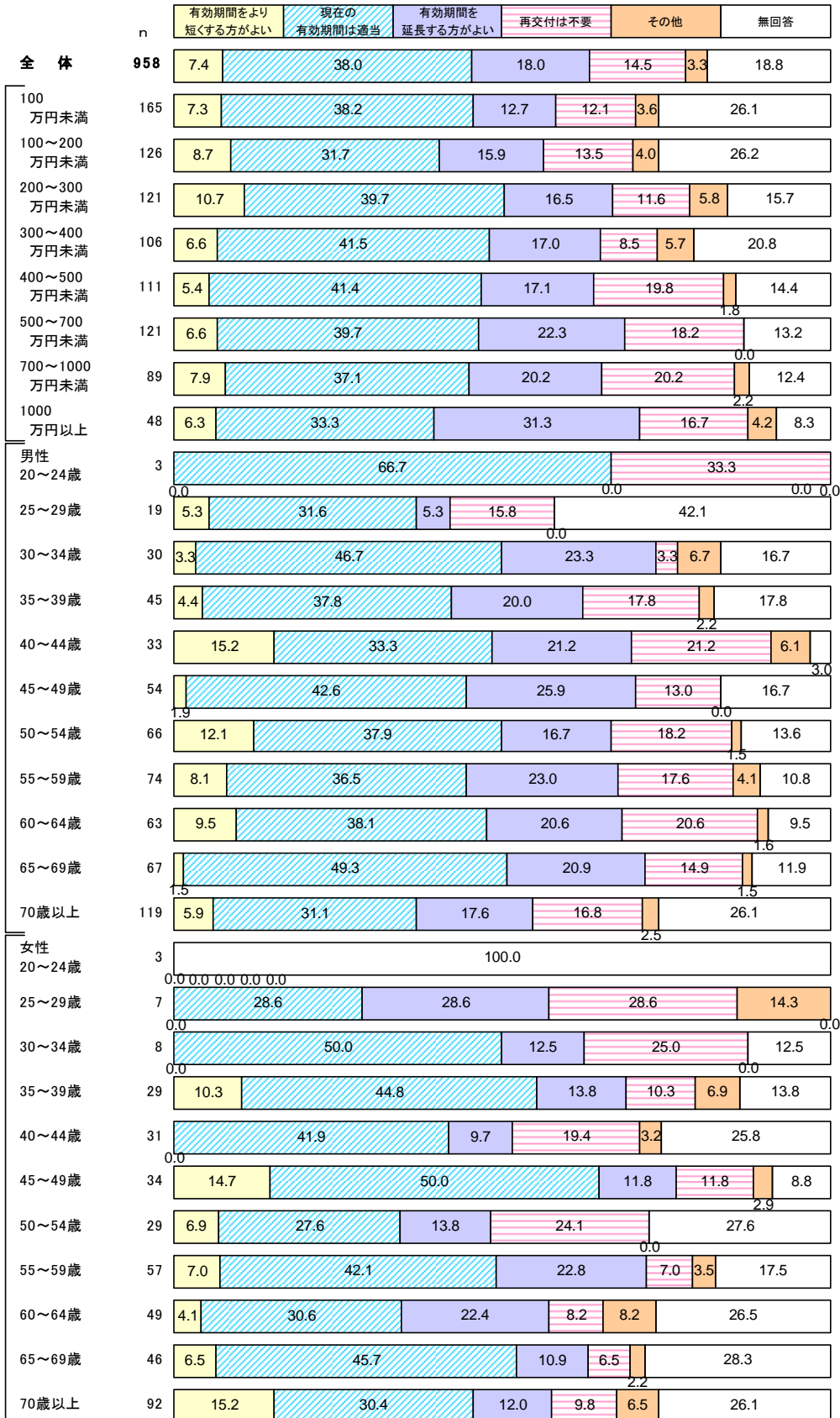




(14) 契約締結前交付書面の有効期間1年間について (問51)

● 証券会社と現在取引中、あるいは現在は取引していないが口座はある人に対して、契約締結前交付書面の有効期間が1年間であることについて聞いたところ、「契約の概要・リスク等について再認識をするため等の期間として、現在の有効期間1年間は適当だと思う」が38.0%で最も高い。その一方で、「有効期間を延長する方がよい」が18.0%、「再交付は必要」が14.5%であった。

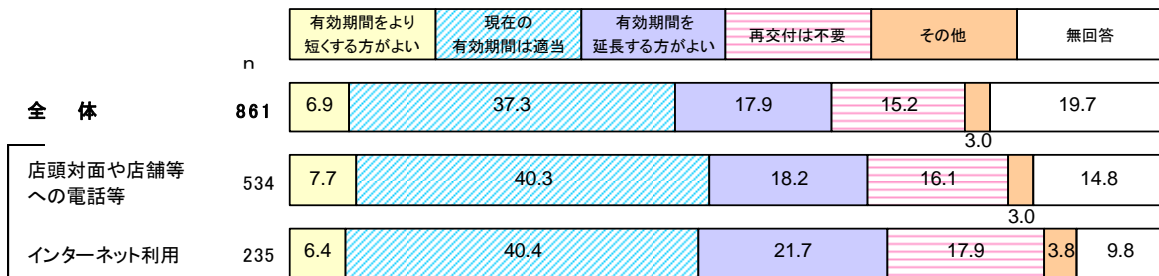
図表 8-27 契約締結前交付書面の有効期間1年間について (問51) / 年収、性・年代別



- 証券会社との主な取引方法別にみても、大きな差はなく、いずれも「契約の概要・リスク等について再認識するため等の期間として、現在の有効期限1年間は適当だと思う」が4割程度となっている。

図表 8-28 契約締結前交付書面の有効期間1年間について（問51）

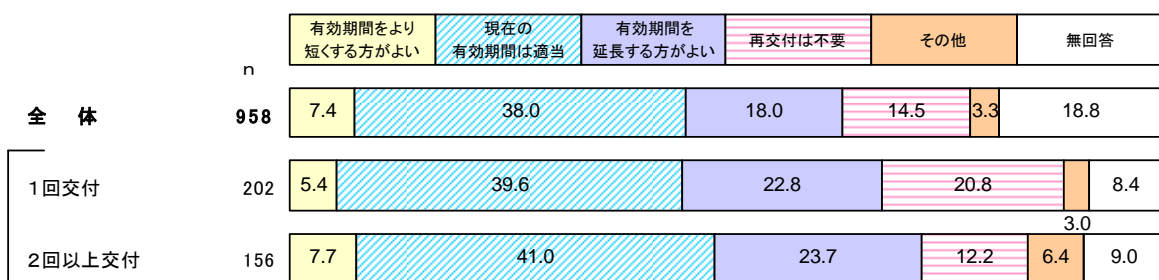
／証券会社との取引方法別（問44）



- 書面交付の経験回数別にみると、1回のみ・2回以上ともに「現在の有効期間1年間は適当だと思う」が4割程度であり、「有効期間を延長する方がよいと思う」が2割強で続く。「再交付は必要ないと思う」は交付経験1回で20.8%、2回以上で12.2%であり、複数回交付を受けたことがある層のほうが低めである。

図表 8-29 契約締結前交付書面の有効期間1年間について（問51）

／契約締結前交付書面の交付回数別（問46）



(15) 「日本証券業協会・あっせん相談センター」の認知 (問 52)

● 「日本証券業協会・あっせん相談センター」について、「名前も知らない」が89.3%に上り、「利用したことはないが、名前は知っている」が10.5%であった。「利用したことがある」は0.2%である。

図表 8-30 「日本証券業協会・あっせん相談センター」の認知 (問 52) / 年収、性・年代別

